

早稲田大学ビジネススクール主催

“直面する経営リスクと求められる IR とは”

経営者向けと実務者向けの2つの講座開講

いま必要な IR 実務がわかる IR 担当者のための

I *n*vestor *R*elations workshop for *O*fficers IRO ワークショップ

2010.7.26 (月) - 7.28 (水) (基礎編) 6 講座
8. 6 (金) - 8. 7 (土) (応用編) 4 講座
+プレゼン発表

会場：早稲田大学大隈記念タワー

IR を通して、経営の活性化をめざす経営者のための

I *n*vestor *R*elations seminar for *E*xecutives IRE セミナー

2010.8.19 (木) - 8.21 (土) 3日間集中講座

会場：早稲田大学総合学術情報センター国際会議場

主催：早稲田大学ビジネススクール

(早稲田大学商学学術院総合研究所 WBS 研究センター)



はじめに

リーマン・ショックの金融危機は、マクロ経済の変貌を促すばかりか、グローバルビジネスや企業にも影響を及ぼしています。多くの企業にとって、これまで経験したことのない試練に直面したばかりでなく、ビジネスそのものを変えざるをえない局面に置かれることも少なくありません。確立したかに見えたインベスター・リレーションズ(IR)についても、変貌をとげている資本市場の動きに伴い変化を余儀なくされており、これまでのやり方だけでは通用しなくなりました。IR 担当者には、機関投資家への対応にとどまらず、経営全般とのかかわりを深め、経営リスク削減のための有効な手段として IR を位置付け直すことが求められています。

早稲田大学ビジネススクールが2004年から取り組んできたIRプロフェッショナル養成講座も7年目を迎えます。2010年度は、これまでの実績を踏まえつつ、「直面する経営リスクと求められるIR」をテーマに、成功するIRの秘密に迫ります。IR実務の基本を押さえてIR担当者を養成する「Investor Relations Workshop for Officers (IRO ワークショップ)」、およびさまざまなリスクに直面する企業経営をIRによってよりスムーズに展開することを目指す経営者(経営トップ・経営執行者層)を対象とした「Investor Relations Seminar for Executives (IRE セミナー)」の2講座を開講いたします。この二つの講座は選択の自由度の高い構成としています。たとえば、IR担当者はIROワークショップ講座に参加し、その上司がIREセミナー講座を受講していただくことも一法です。もちろん、IRオフィサーを志向される方が両講座を通して参加していただくことも歓迎です。皆様の企業の状況や受講生に合わせた多様な受講の仕方を検討いただければと思っております。

IRO ワークショップ (Investor Relations Workshop for Officers)

上場企業や上場を目指す企業のIR実務担当者や中間管理職向けの実践ワークショップ。

IRの基本から資本市場の直近の動向まで、最新の活きた知識とスキルを得ることができます。さらにプレゼンテーションの実技指導を通じて、IRの実務を担う上でのコンセプトワークや留意すべきポイントをしっかりと身につけることができます。

講師陣は、関係官庁、取引所、また、財務・会計などの専門家や、現役アナリスト、IR実務経験者などが担当します。早稲田大学大隈タワーにおいて、基礎編として7月26日(月)から28日(水)、及び応用編として8月6日(金)は、夕刻からの講義とし、総括として7日(土)は、午前および15時ごろまでとなります。基礎編・応用編どちらかのみ受講も可能です。

IRE セミナー (Investor Relations Seminar for Executives)

上場企業や上場を目指す企業の経営トップをはじめ、財務担当役員、IR担当役員、およびその候補者を含めた役員・上級管理職クラスの方々を対象としたエクゼクティブセミナーです。「なぜ企業経営にIRが不可欠なのか、その経緯と背景」、「世界の資本市場と主要投資家の現状」、「財務戦略を進める上での必要な情報・知識」「市場から評価される中期経営計画の策定」、「自社のIRの客観的な評価と対応策の分析」、「M&A や敵対的 TOB、委任状闘争などの有事における企業攻防」など、資本市場を軸に置きつつ、現代の企業経営に不可欠なWeb2.0時代のビジネス・コミュニケーションとIRに関する最新の知識と方法論を、各界の一流講師陣や各分野のオピニオンリーダーから学ぶことができます。役員・管理職の方々の忙しいスケジュールを考慮して、当講座は8月19日(木)からの3日間の集中講座としました。会場は、早稲田大学国際会議場となります。

※両講座とも、全講座受講された修了者には、早稲田大学ビジネススクールから修了証が授与されます。

ご参考：過去6年間の講座テーマ

第1回	受動的IRから能動的IRへ	第4回	企業の持続的成長を目指すIR
第2回	転換点を迎えたIR活動	第5回	企業の持続的成長を支えるIR
第3回	企業戦略としてのIR	第6回	非常時の、いま求められるIR

カリキュラム および 講師

2010 IRO ワークショップ (Investor Relations Workshop for Officers)

日程		講師	カリキュラムの主旨		
基礎編<優れた IR を実践するために> 企業の IR 活動に関するベーシックな知識・理論を学び、また、最近の IR に関連する問題点を各分野のスペシャリストが整理していきます。					
第 1 回	7 月 26 日(月) 18:20~ 20:30	1 時限 (18:20-19:20)	花堂 靖仁	開講にあたり	なぜ、いま IR に真剣に取り組むべきか、また、今回の一連の講座で必ず習得してもらいたいポイントを詳細にご案内します。
		2 時限 (19:30-20:30)	松島 憲之	アナリストへの IR~セルサイド・アナリストからみた IR	長年のトップアナリストとしての経験を踏まえ、セルサイド・アナリストの役割の変遷と課題について整理しながら、企業がどうセルサイド・アナリストと向かい合ったらよいかをテーマに実例を含めて説明していきます。
第 2 回	7 月 27 日(火) 18:20~ 20:30	1 時限 (18:20-19:20)	君島 邦雄	企業側から考える IR 業務	コーポレート・コミュニケーションの重要な構成要素という考えから企業内における IR 活動のあり方、問題点等を整理します。加えて、最終日に受講生に行なっていただくプレゼン課題の解説とチーム作りを発表します。
		2 時限 (19:30-20:30)	岩田 宜子	機関投資家と個人投資家へアプローチ	IR でのコミュニケーションの対象である投資家を分類・整理し、さらに、最近の IR 実務における問題点をピックアップします。同時に、各受講者が考えている問題点を抽出し、今回の受講のポイントをアドバイスします。
第 3 回	7 月 28 日(水) 18:20~ 20:30	1 時限 (18:20-19:20)	宮永 雅好	企業の株価形成と IR の役割(証券市場における企業価値論)	企業価値評価に関するファイナンス理論からのアプローチを解説し、それを踏まえた上で、株式市場において、アナリストや投資家はどのような手法で株価評価をしているのかを学びます。また、企業の財務戦略と株価の関係および IR の役割を皆さんと一緒に考えます。
		2 時限 (19:30-20:30)	花堂 靖仁	企業の正しい「価値」を考える(グローバル社会における企業価値論)	基礎編の講義を総括しつつ、現在グローバルで注目されている「新たな企業価値」とは何か、また企業は、何をどうやってアピールすることで、正しい企業価値を形成することができるのか、という点について考察します。
応用編<今後の IR をさらに進化させるために> 投資家に評価される様々なアウトプット方法を具体的に紹介していきます。また、IR 担当者としてのさらに高度な専門的理論武装も身につけていただきます。					
第 4 回	8 月 6 日(金) 18:20~ 20:30	1 時限 (18:20-19:20)	本多 淳	効果的な IR 資料の整備	IR 実務のプロとして、日米双方の制度開示をはじめ各種の IR 関連資料を先駆的に作成してきた経験に基づいて、上場企業が投資家に開示すべき効果的な IR 資料の作成法につき解説を行ないます。
		2 時限 (19:30-20:30)	福田 秀樹	Web 等を使った効果的な IR ツールの活用	情報源としてすっかり必需品となった WEB による IR の最近のトレンドを紹介し、また投資家・株主にとって有益な IR サイトとはどんなものか、問題のあるサイトはなぜだめなのか、などを具体的な事例を使って解説します。
第 5 回	8 月 7 日(土) 9:20~ 15:00	1 時限 (9:20-10:20)	北川 哲雄	IR 活動とその評価	最近の説明会や発信情報で見られる問題点を具体的にピックアップし、何が問題であるか、どう解決したらよいかを説明していきます。さらに、IR 活動については様々な関係者・機関による評価がありますが、どの点に留意し普段の活動を行なうべきかについて講義します。
		2 時限 (10:30-11:30)	吉田 幸司	上場会社における適時開示の在り方と今後の方向性	適時開示の最先端の視点から、上場企業が誤りやすいこと、誤ったための影響などを具体的に紹介しながら、情報開示に関するエキスパートとしての知識を習得していただきます。
		3 時限 (11:40-13:10)	事務局 講師	プレゼンテーションの発表	最終日は、3 時限として、受講生の皆様にはプレゼンテーションをしていただきます。その後、ジャーナリストの矢澤 洋一先生を加えた事務局講師(花堂教授、君島、宮永、北川、岩田、高山)による講評と総括をいたします。
		(13:10~15:00)		修了式と懇親パーティー	

2010 IRE セミナー (Investor Relations Seminar for Executives)

日程		講師	カリキュラムの主旨			
第1回	8月19日(木) 9:30~18:00	1 時限 (9:30~10:45)	花堂 靖仁	オリエンテーション 企業経営者とIRについて	本講座の各テーマについて、Web2.0時代において、特にIFRSのアドプションを控えるなかで、投資家およびその他ステークホルダーが公開企業に加える評価にどのように関連するのかを説明するオリエンテーション。	
		2 時限 (11:00~12:15)	平塚 敦之	新グローバル資本主義と今後のIR	IFRSのアドプションを含め、グローバル化の波が企業に寄せています。世界が向う方向を知り、新たな課題に対処する戦略立案が経営陣に強く求められます。政策立案の最先端にいる講師が新たな動向を語ります。	
		昼食				
		3 時限 (13:15~14:30)	長友 英資	コーポレートガバナンス論の再考	リーマン・ショック後、改めてコーポレートガバナンス(CG)への関心が世界的に高まっています。なぜ資本市場はCGを強く求めるのか、資本市場を熟知し、また数多く社外役員の任についている経験から分析します。	
		4 時限 (14:45~16:00)	芝坂 佳子	21世紀型企業情報開示と企業の中期経営計画	IFRS アドプションに伴い、許容枠内で経営執行の選択肢を自ら見出し、実行した事業活動を経営トップが理解可能なように説明するマネジメント・アプローチが求められます。鍵となる非財務データ開示の方策を整理します。	
		5 時限 (16:15~17:30)	高山 与志子	経営リスクに対応するIRを考える	企業は今様々な経営リスクにさらされています。議決権行使結果開示による株主からの圧力の増大と有事への展開、ガバナンス向上に関する当局と投資家からの度重なる要求、アジア企業との製品市場・資本市場における競合、これらの経営リスクを軽減するためのIR戦略についてご提案します。	
		(17:30~18:00)	事務局・花堂・岩田	本日のまとめ		
第2回	8月20日(金) 9:30~18:00	1 時限 (9:30~10:45)	大崎 貞和	資本市場における規制の強化と今後の動向	金融危機からの資本市場の混乱は、さまざまな規制の強化となって表れてきており、IRにも大きな影響を与えています。その動きと今後について、議論の中心で活躍中の講師からわかりやすく説明します。	
		2 時限 (11:00~12:15)	高橋 文郎	企業の財務戦略とIR	財務は経営の決断や方向性を示す一つであり、財務戦略に沿ってIREは情報発信をする必要があります。IRのツール作りのみに関心がいく傾向が最近強まっているなか、原点に立ち戻り財務とIRの関係を整理します。	
		昼食				
		3 時限 (13:15~14:30)	松田 千恵子	今後のデットIRを考える	デッドホルダーは、「夢」よりも「安全」を重視するため、エクイティ(株式)とは異なったIRの展開が必要です。格付会社や社債権者との関係を含めデットIRの留意点を把握し、資金調達をより効率化する道を探ります。	
		4 時限 (14:45~16:00)	鳥飼 重和	法律家からみた上場企業経営の在り方について	いま経営陣には、法律を駆使するだけでなく、法律に影響を与える創造性が求められる。経営陣と共に新たな課題に挑戦してきた経験から、税務と法務にまたがる上場企業のこれからの経営課題を語ります。	
		5 時限 (16:15~17:30)	古沢 めぐみ	IR エグゼクティブの心得(インプレッション編)	日本の経営者が取り組むIR活動の盲点は服装や仕草、話し方です。掲載する写真一枚で、取り返しのない失敗を犯すことになりかねません。エグゼクティブの服装学の視点からIR活動のあり方を考えます。	
		(17:30~18:00)	事務局・花堂・宮永	本日のまとめ		
第3回	8月21日(土) 9:30~15:00	1 時限 (9:30~10:45)	蔵元 康雄	IR エグゼクティブの心得(コンテンツ編)	投資運用業務に50年従事し、現在も第一線で活躍する視点から、経済危機脱出を果たそうとしている日本企業の何に、いま注目しているのか、またIREに何を求めるのかを示し、投資判断の決め手を語ります。	
		2 時限 (11:00~12:45)	北川 哲雄	NIRI 基準の再考	IREが担う役割を高い水準で遂行するにあたり、ともすると見落としがちなポイントを、改めてNIRI(全米IR協会)のIR行動基準に照らし整理することを通じ、今回の講座の総括をいたします。	
		(13:00~15:00)	修了式と懇親パーティー			

【講師陣 (予定)】

北川 哲雄 青山学院大学大学院
 高橋 文郎 青山学院大学大学院
 芝坂 佳子 あずさ監査法人
 君島 邦雄 ㈱コノツツ
 長友 英資 ㈱EN アソシエイツ
 鳥飼 重和 鳥飼総合法律事務所
 宮永 雅好 アイ・アール・ビー(株)
 福田 秀樹 イー・アソシエイツ(株)
 矢澤 洋一 矢澤コミュニケーションオフィス
 高山 与志子 ジェイ・ユーラス・アイアール(株)

本多 淳 ジー・アイアール・コーポレーション(株)
 松島 憲之 シティグループ証券(株)
 大崎 貞和 ㈱野村総合研究所
 蔵元 康雄 フィデリティ・ジャパン・ホールディングス
 古沢 めぐみ ㈱プロフェッショナルイメージ
 松田 千恵子 マトリックス(株)
 平塚 敦之 経済産業省企業行動課企画官
 吉田 幸司 東京証券取引所
 花堂 靖仁 早稲田大学ビジネススクール
 岩田 宜子 ジェイ・ユーラス・アイアール(株)

※:講師は都合により変更の可能性もございます (順不同 敬称略)



開講にあたって

開講趣旨について

早稲田大学ビジネススクール 教授 花堂 靖仁



これまでの6回の開講は、自らIRの精神・知識・スキルにたしなみ、自社の経営に貢献しようとした経営陣や財務担当役員のニーズに応え、またIRの実務経験を活かしてIRオフィサーとしてのキャリアアップを志向する企業人のニーズに応えることで、受講者および関係者から高い評価を得ることができました。第7回目である本年のテーマは、「直面する経営リスクと求められるIR」といたしました。わが国の企業経営に必須のものとして定着したIRは、実は、平時において株式市場のオピニオンリーダーと目されてきた機関投資家を主たる対象として展開してきました。ところで、その機関投資家の中心が海外からの年金基金等であったことは、リーマン・ショックで日本市場から撤退した資金の実態を見ることで明らかになりました。

この日本の株式市場における資金の出し手であった海外投資家が、一昨年秋以来の金融危機のなかで、一気に資金を引き揚げました。これに伴う株式市場の縮小により、海外機関投資家を支えてきた外資系セルサイド・アナリストの大半は職場を失いました。かつてヘッジファンドの台頭により「御用聞きアナリスト」と揶揄されるようになっていたセルサイド・アナリストは、さらに厳しい状況に追い込まれ、資本市場の情報仲介者としての存在意義を失いかけています。誰が、企業の価値創造ストーリーを、投資家をはじめとする企業のステークホルダーに適確に伝えてくれるのでしょうか？

答えは明確です。資本市場の情勢変化を受け止め、IRの原点に立ち戻ることです。かつてアメリカにおいて連邦証券法の下における一般投資家向けのコミュニケーション手法をGEが創出したように、企業のIR関係者自らがその任に当たるときです。SWOT分析を踏まえ、自社の価値創造プロセスを客観化し、自らの競争力を殺ぐことないようにIRスキルを駆使し、かつレピュテーション・リスクを負わないように配慮しながら、自社のストーリーを伝えなければなりません。Web2.0のコミュニケーションにあっては、IR活動の巧拙は投資家をはじめとする企業のステークホルダーによる企業評価を大きく左右し、その存亡を決めかねないほど企業経営と深く関わっています。その鍵は次のように要約できます。

- ① 資本市場における自社のポジションを客観的に分析する。
- ② 事業ドメインにおける潜在的能力のなかから自社のコンピテンシーが何かを事業の時間軸と関連させて明らかにする。
- ③ 自社の価値形成がどのようなプロセスで実現されるかを資本市場関係者に、グローバルに共通する企業開示プラットフォームを活用して説得的に説明する。
- ④ これらの開示情報を投資家以外の主要なステークホルダーとも共有できるように、それぞれの関心と理解力に応じるようにして提供する。

このような認識を基本において、本年は、次ページのような講師陣とカリキュラムにより開講させていただきます。

過去の受講者のコメント

第一三共株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IRグループ長 近藤 成径

IR担当者にとっては、経験を積みば積むほど、経営者と株式市場関係者の狭間に立つことが多くなり、自分の方向性に関して迷いが生じることがあります。また業務を通して自社・自業界に関する情報収集には熱意を注ぐ一方で、会計・法律・制度といった一般的な最新情報の入手については、意外と無頓着だったりすることもあります。

IRE セミナーは、この二つの課題に応じてくれる講座です。アカデミアの立場から、我々IR担当者に対して貴重な示唆を与えて頂いている花堂先生を筆頭に、様々な分野のプロフェッショナルの方々のお話しを、短期集中で聞くことが出来ます。私自身、10年間の業務経験をブラッシュアップする目的で2008年夏の講座に参加しましたが、他の講座にはない充実した内容を「堪能」し、自分自身を活性化する、またとない機会となりました。



開催概要

	Investor Relations Workshop for Officers (IRO ワークショップ)	Investor Relations Seminar for Executives (IRE セミナー)
【 期 間 】	2010年7月26日～7月28日 2010年8月6日～8月7日	2010年8月19日(木)～8月21日(土)
【 定 員 】	40名	16名
【 受 講 料 】	¥75,600(税込)* 基礎編のみ参加の場合 ¥31,500(税込) 応用編のみ参加の場合 ¥50,400(税込)	¥155,400(税込)*
【 主 催 】	早稲田大学ビジネススクール(早稲田大学 商学学術院総合研究所 WBS研究センター)	
【 会 場 】	早稲田大学大隈記念タワー 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1	早稲田大学総合学術情報センター国際会議場 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-20-14
【 申 込 方 法 】	添付の申込用紙にてお申込ください。	
【 お 問 合 せ 先 】	早稲田大学 IRO 養成講座事務局 (ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社内) 〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2 オーセンティック半蔵門 7F Tel.03-3512-0907 Fax.03-3512-0908 Email waseda_iro@j-eurusir.com http://www.j-eurusir.com	

会場マップ

